

パブリックアートにおける維持管理の課題と意義 ー富山県高岡市を事例にー

Challenges and Significance of Maintenance in Public Art:
A Case Study of Takaoka City in Toyama Prefecture

アートマネジメント／論文

地域キュレーションコース

土井 帆夏

Doi Honoka

研究目的

パブリックアートとは、美術館やギャラリーの中ではなく公共空間に設置された芸術作品のことである。鋳物産業の発展により銅像の製作が盛んな富山県高岡市には、銅像をはじめパブリックアートが70点近く存在する。一方で、パブリックアートは野外に多数の作品が設置されるため、作品の劣化や維持管理の担い手不足など、維持管理に課題が多い。そこで、本研究では、高岡市のパブリックアートにおける維持管理の課題と意義を明確にすることで、今後のパブリックアートの維持管理やパブリックアートを活用したまちづくりの在り方を考えることを目的とする。

研究方法

本研究では、①パブリックアートの概要、②高岡のパブリックアート、③高岡のパブリックアートの維持管理と課題、④他地域の事例という4つの内容をもとに、高岡市におけるパブリックアートの維持管理の課題と意義を明確にした。まず、①と②では、文献調査をもとに、パブリックアートの全体像及び高岡のパブリックアートの概要を把握した。次に、③では、現地調査や関係者へのヒアリングを通して、高岡市のパブリックアートにおける維持管理の課題を調査した。そこで明らかになった課題の解決策も提案した。そして、④では、パブリックアートの今後の維持管理の在り方の参考として、他地域におけるパブリックアートの維持管理の事例を挙げた。最後に、これまでの内容を踏まえ、パブリックアートを維持管理する意義を明確にした。

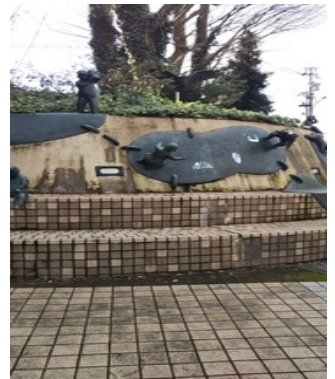
課題とその解決策

調査の結果、高岡市のパブリックアートは、維持管理において次の3つの課題があることが明らかになった。1つ目は、作品数が多く、中には汚れなど経年劣化が目立つものや現代との価値観のずれが見られるものもあることである。2つ目は、周辺に建物や標識が並ぶ情報量の多い空間に設置されるなど、周囲の空間との調和が考慮されている作品が少なく、それゆえに作品の存在感が薄まり、市民からの関心を低下させてしまったことである。そして3つ目は、維持管理の担い手が不足していることである。これらの課題の解決には、高岡市民が高岡のパブリックアートに触れる機会を増やすことが必要であると考えた。解決策として図工の授業で実施するパブリックアートの鑑賞体験教室や、パブリックアートをめぐる街歩きツアーなど、市民の関心を高めるイベントの開催を提案した。

高岡市のパブリックアート

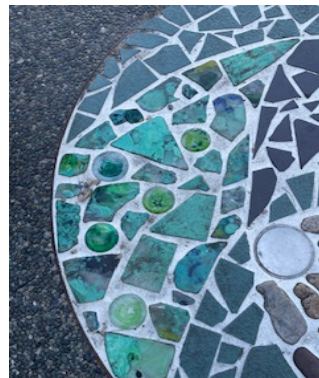


(図左) 伝えの扉制作チーム《伝えの扉》(部分)、筆者撮影



(図右) 鎮守の杜プロジェクト「たまや」《鎮守の杜のアルチザン》(部分)、筆者撮影

劣化の事例



(図左) 汚れ：伝えの扉制作チーム《伝えの扉》(部分)、筆者撮影



(図右) 部品の欠落：鎮守の杜プロジェクト「たまや」《鎮守の杜のアルチザン》(部分)、筆者撮影

結論

これまでの調査結果を踏まえると、パブリックアートを維持管理する意義は次のように示すことができる。その意義とは、パブリックアートは「人々の交流」、「周辺環境の美化・魅力向上」、「地域活性化」の3つにつながる存在であり、これら3つを活発化させるために、パブリックアートの維持管理は必要不可欠なものであるということだ。この意義と課題の明確化、そして課題の解決策の提案によって、今後のパブリックアートの維持管理の重要性が高まるとともに、パブリックアートを活かしたまちづくりがさらに進められることが期待される。